

## はじめに

### 小宇宙から反転し大宇宙へ繋がる「渦」の紐解

私たちの小宇宙という人体は、突き詰めていくと反転して大宇宙へと繋がるため、元々大宇宙の叡智と繋がる素晴らしい機能を初めからもっています。

マクロからミクロに至るまで、完璧なる宇宙が、ひとりひとりの宇宙において、完璧なるタイミングで展開されているのです。

ですから大切なのは、あなた自身の宇宙を全うしていくことです。

ぜひ自分という素晴らしい小宇宙をどこまでも探求して行ってください。

探求の臨界点を越えたとき、まさに太極図のように陰陽が反転して、大宇宙の神秘や大宇宙に繋がる使命が見えてきます。

私たちは、ただ自分の内側を意識していくことで、実は外側の運命が連動して変わっていくのです。

素粒子レベルでみていけば、私たちという存在は、周りすべての存在や地球や宇宙と同化し、重なり合って生きています。

また、素粒子も超高速で振動していて、この世界は、「渦」や「回転」というエネルギーから創造されていることが分かります。

その「渦」という言葉を、言霊的に見てみます。

『カタカムナ言霊の超法則…言葉の力を知れば、人生がわかる・未来が変わる!』（著者…吉野信子徳間書店 単行本 2015年9月18日）の思念表をもとにみれば、「う」とは「生まれ出る」となり、「ず」を濁音のない「す」で見れば、「一方方向に進む」となります。

ここから「うず（うす）」とは、「生まれ出て、一方方向へ進む」となり、原初のエネルギーが生まれ出て、一方方向へ進む、すなわち自転、公転のように回転する様が見てとれます。

また濁音がつくと、エネルギーの方向性が反転すると言いますので、「うず」とは、生み出されたエネルギーが超高速で回転し、さらに反転して、螺旋を描くように外へと広がっていく様を示しているのかもしれない。

このように「うず」という言霊に、「渦」が宇宙の大元のエネルギーであることが示されているよう

に思います。

また、「渦」を同音異義語から見れば「うず」∥「宇宙」∥「生(産)主(うず)」と見ることもできます。

「宇宙」は「宇」宙の「主」、すなわち原初のエネルギーを示唆し、「生(産)主」とは、宇宙を生み出した大いなる創造「主」から「生(産)」み出されること。

つまり、「渦」∥「うず」∥「宇宙」∥「生(産)主」とは、宇宙を生み出した大いなる創造主から湧き出したエネルギーが、超高速の回転運動で、かつ螺旋軌道を描いて、この宇宙に湧き出てくることを現しているように感じます。

見えない世界から湧き出す渦のエネルギーは、人体においても、細胞のDNAの二重螺旋の構造や、指紋やつむじに投影されています。また血液も螺旋の回転を描いて、心臓から押し出されるといいます。

上巻でみたように、素粒子も超高速で回転し、原子核の陽子や中性子も、その周囲を回る電子も超高速で回転しています。

プラナーナも超高速の回転運動をしていますし、ソマチッドも超高速の回転運動をしているはずで、地球は自転して、太陽の周りを公転していますし、宇宙はプラズマが関わる渦のエネルギーから始

まっています。

このように宇宙は、ミクロからマクロまですべてが振動し、回転して渦を巻いています。

真の健康とは、人体という枠組みだけではなく、この宇宙に視野を広げて、小宇宙と大宇宙の関連などから人体を見ていくことで、初めて見えてきます。

意識も意志も、素粒子であり、超高速の電気信号のやりとりが成されていることをみれば、渦であり光そのもののものだと言えるでしょう。

少し余談になりますが、「大秦」という地が京都にあります。

「大秦」とは「うずまさ」と読みます。これは当て字ですが意味あつてのことです。

これには諸説ありますが、「うずまさ」とは古代ヘブライ語で、「うず・まさ」となり、「ウズ（光）」「マサ（賜物）」という意があるそうです。

「ウズ」|| 「太」という漢字を当てたのは、ローマ帝国の中国での表記「大秦」との関わりもあるのですが、「渦（ウズ）」|| 「太」となり、「太」は「太一」に通じ、唯一絶対神を示唆します。

「渦」|| 「太」|| 「唯一絶対神」となり、渦とは唯一絶対神のエネルギーから生じたものとみること  
もできます。

また、先の「ウズマサ」⇨「光の賜物」と見れば、「渦」⇨「ウズ」⇨「光」となり、まさに光のエネルギーが、この宇宙を創造したといえます。

その宇宙の光を受けて創造された人体も、バイオフィトンという光に包まれているように、人体も「光」から成っているのです。

こういったことから、宇宙の根源には光が関わっていることが読み解け、「光」は「ミツ」と読みますが、「ミツ」⇨「三ツ」となり「三」がこの宇宙の基準であることが示唆されています。

日本最古の歴史書とされる古事記には、冒頭に「天之御中主神」「高御産巢日神」「神産巢日神」の造化三神が現れてお隠れになったとあります。ここに宇宙創造と「三」の関わりが明かされています。

「渦」の漢字も「さんすい」があり、「三(神)」が見て取れますし、「さんすい⇨三(神)」と「水」の関わりから、「神(三)」と「水」の深い関係が見てとれます。

また「水」は「陰」であり、「陰」⇨「見えない世界」から始まっていると見ることが出来ます。

「山」や「川」という自然を表す漢字も、字体から「三」が見て取れますので、大自然には「三神」が宿ることを象徴しているように思います。

「光」の漢字も、上の部分が三本の線から成ることから「三神」の象徴と見ることもできます。

いずれにしても宇宙は「三神」の宿るエネルギーでもある「渦」「光」から生み出されているのです。

そして渦は左回りと右回りがあります。回転のエネルギーで、右回りの渦と左回りの渦がぶつかる  
と、プラス（陽）とマイナス（陰）がぶつかることになり、ゼロ磁場が生じます。

陰陽のエネルギーがぶつかることで、新たなエネルギーが生み出されるのです。太極図はそのこと  
が示され、男女から子どもが生まれるのも、まさにそうです。

左回りと右回りの渦から、日本神話の国生み神話が思い出されます。

伊邪那岐命と伊邪那美命は、天沼矛で大地をかきまぜて、滴り落ちてできたオノココロ島に降り立ち  
天御柱を建てます。

伊邪那岐命（陽・男）と伊邪那美命（陰・女）は、天御柱の回りを巡り出逢って（結合して）、淡路  
島を初めとした島々（日本列島）を生み出していきます。

この神話もまた、左回りと右回りの渦がぶつかって、新たなエネルギーが生まれる様を示唆してい  
ます。

ウズマサに話を戻しますが、ウズマサは光の賜物の意だと言いましたが、『失われた原始キリスト教

徒「秦氏」の謎』（飛鳥昭雄・三神たける著、学研）によれば、さらに驚くべきことが述べられています。

ウズマサとは、「イエス・キリスト」を意味するアラム語「イシュ・メシヤ」がなまったものである、というのです。

「イエス・キリスト」↓「イシュ・メシヤ」↓「ウズ・マサ」

つまり「ウズ」⇔「イシュ」⇔「イエス」となります。イシュは、伊勢にも通じますし、伊勢には天照大神を祀る伊勢神宮内宮が鎮座しています。

イエス・キリストも天照大神も「光の神」の象徴であることから、この繋がりには偶然ではありません。「渦」とは、こうしてみると、非常に興味深い意味を重層的に内包していると思われれます。

またさらに派生して、「ウズ」は「アメノウズメ」の「ウズ」にも通じることを『ガイアの法則Ⅱ』（ヒカルランド）の千賀一生活氏は指摘されています。

『『アメ』とは宇宙であり、『ウズ』とはスピンド。』

アメノウズメとは、素戔嗚命が乱暴狼藉をした際、天照大神が天岩戸にお隠れになった時に登場す

る神です。

八百万の神々は話し合いさまざまな儀式を行います。

アメノウズメは天照大神の気をひこうと、天岩戸の前で踊ります。気になった天照大神は天岩戸から顔をのぞかせたところを神に引つ張り出されて、世界に再び光が戻るといふ神話です。

いわばアメノウズメの踊りがきっかけになり、世界は光を取り戻したということになるのですが、アメノウズメの「ウズ」が「渦」に通じ、踊りは、「回転」や「振動」を象徴していると見ることができません。

アメノウズメの活躍（ウズ・振動・回転）によって、天照大神（光）が暗闇（見えない世界）から天岩戸の外の世界（見える世界）へ出てきたことを表しています。

まさに、宇宙の根源的な光のエネルギーが振動し、回転しながら「渦」となって、見えない領域から見える領域へ、闇から光へ湧き出してきた光景と重なるのです。

「渦」が「光」を象徴し、光の神の象徴として、天照大神やイエス・キリストという存在があることを思えば、私たちの宇宙は「渦」から、「光」の創造意志エネルギーが生み出されているのであり、最初から光の神、天照大神やイエス・キリストの光が、この宇宙の隅々にまで行き渡つていると言えるでしょう。



そして当然ながら、光のエネルギーを一身に受けている人体をもつ私たちもまた、生まれてきて今ここにいますが、すでに素晴らしい「ウズ（渦・光）」の恩恵を受けているということですよ。

「人」は「日止<sup>ひと</sup>」で日・光が止まる存在であり「霊止」で「霊」が「止」まる存在なのです。

さらに言えば「一十<sup>ひと</sup>」であり、「一」から「十」まですべてを含む完全なる存在なのです。

また「人」||「じん」||「神」となり、「人は本来神である」という道家神道の教えにも通じます。このように宇宙の大元「渦」の根源的エネルギーや「人」の完全性に気づいた時、意識の変革が起こり、「ミクロコスモス（無限の小宇宙）」は光に包まれて、人生は完全に満たされた状態から始めていくことができます。

私たちは、初めから宇宙を生み出した「渦」、もしくは完全なる「光」に包まれていたのです。そのことを忘れないでいただきたいと思えます。

下巻では、素粒子全てに愛と意志が宿っていること、感謝と祈りの陰陽の力、言霊こそが意を生み出し現実を創造していること、人体を「ミクロコスモス（無限の小宇宙）」から輝かせていく具体的な実践方法を述べていきたいと思えます。

上巻でみてきた大宇宙と小宇宙の可能性を、今度は実際に体現していく「実践編」となります。

読み終わる頃には、あなたは自分の無限の可能性に気づき、運命が変わっていくことを確信してい

ただけるでしょう。

下卷